



珠江の 流れとともに

特集

[文]	桑村一朝
text :	Kazutomo Kuwamura
[写真]	南信之
photo :	Nobuyuki Minami

河、それは古代から生活の源であり、そこには文明が発祥し、文化が築かれ、歴史がつづられてきた。中国でただ単に「河」といえば黄河を指し、「江」といえば長江を示す。

珠江は雲南省曲靖市を源にした西江、広東省韶關に集まる水が流れを作る北江、西江省南部を水源とする東江の三つの総称で、全長約2,200キロは中国第4位に甘んじるが、その水量と流域に住む人の数では長江に次いで第2位である。

中国南部は昔、高温多湿、毒虫や蛇、風土病や伝染病の蔓延で、とても人の暮らしに適した土地ではなかった。故に広州に文化が開いたのは黄河流域よりかなり遅い2800余年前ごろといわれる。その後、海上絲綢之路海のシルクロード」の都市として栄え、中国南部に繁栄をもたらした。

珠江は広州を河南と河北とに分断する。河北には珠江を臨んだ城市が古代から形成されており、現在も政治経済の中心地である。河南はいわゆる、川向こう」の印象が残る地域だったが、最近では都市開発が進み、特に珠江沿いに競い合うように建つ豪華な高層マンションの建設はとどまるところを知らず、河南の風景は大きく変化している。

遠く南越王朝の時代、趙佗皇帝が国

室として大切にしていた珠（真珠）があった。珠は皇帝の死とともに埋葬される。ある日、玉京子という仙女を助けた書生・崔（火韋）は仙女に連れられて皇帝の墓に入りその珠を賜るが、その後ベルシャの商人に売り渡してしまふ。商人が帰国の際に河を船で下ると、不思議にもその珠は突然空中に舞い水に沈んだ。

これが珠江の名の由来である。珠江にまつわる伝説はロマンに満ちているが、現実にも目を向けると、ここでは血生臭い事件も起こっている。

1927年12月、労働者と農民からなる広州コミューンの国民党政府に対する武装蜂起は一旦成功したかのように見えたが、形勢は逆転し、革命軍は掃討された。その時、珠江は捨てられた死体で埋め尽くされたという。蜂起したのは4000人だったが、巻き添えになった市民を合わせた7000人も屍が浮く結果となった。

現在、珠江沿いの道路と遊歩道は立派に整備されている。広州市内を流れて沿って上流からたどり、私が初めてこの土地を訪れた80年代、それよりもずっと遠い自分の知らない時代、それぞれの時代に浸りながら騒音の中にあらずむと、幻のように見えてくる過去の光景が現実を攪拌する。





夜の沙面は格好のデートスポット

白鵝潭

人民大橋の辺りを白鵝潭という。明の時代、圧政に苦しむ農民を率いた黄蕭養は小船300艘を従えて広州郊外の南海から敵陣を目指す。その時、天を飛ぶ2羽の天鵝が水先案内をした、というのが地名の由来である。

清の道光皇帝の時代、在位1820〜1850年には、花船が水面を埋めて白鵝潭はまるで陸地のようになり、富豪たちが音楽、美食、酒に酔いしれながら好みの女を求めて船から船へと歩いた。また、大亜湾あたりの海賊の女首領がここで料亭を経営していたともいう。

沙面はその白鵝潭の一角、小さな中州のような土地である。阿片戦争の末、1861年に8割が英国の、2割がフランスの租界となった。沙面には歴史をしのばせる巨大な並木が木陰を作り、欧州風の建物がそのまま残っていて、多くは政府機関の事務所や官舎として使用されている。

沙面公園では老人のグループが集い、ラジカセをかけて踊ったり、粵曲を歌ったり、太極拳で鍛錬したり、将棋、碁にいらそんだりする。中国的光景が一日中見られる。しかし、この公園は夜にはオープンエアのバーがにぎわいを見せる広州で最も西洋人が多く集まる場



荔湾区の路地裏

所のひとつでもある。公園の隅には大砲が2基、英国艦船の来た方向を向いたまま置き忘れられたように残っている。

沙面の運河を隔てた西側の黄沙港は広州市内唯一の漁港である。時折、大きな船が停泊して魚を陸揚げしている。水のかからとまかれた水でいつも路面が濡れ、魚市場独特の雰囲気漂う。

黄沙から芳村へは渡し船が出ていた。以前は鉄製の頑丈な船がバイクや自転車を乗せて各所を渡していたが、多くの橋がかけられた現在は便数も減り、もっぱら乗客だけを運んでいる。

沙面の北に広がる下町、荔湾区。百年前とそれほど変わっていないのはいか、と思われるほど古い街並みが広がる地区である。路地を一つ入ると、3階建ての小さな住居が空を狭くし、曲がりくねった路地はまた路地を呼



海珠橋

び、蟻の巣のように広がる。清平路界限は、1927年に逃げ込んだ革命軍を追って国民党軍が掃討激戦を繰り広げたところであり、静かなたたずまいの中に今でも銃声が遠く聞こえてくるようだ。

沿江西路

沿江西路には政府所有の建物が並び、上海の外灘を小さくしたような感じである。戦前からあるホテル・愛群大酒店が当時の雰囲気を残している。1916年に英国人によって建てられた税関本庁舎の時計塔はとりわけ美しい。四面に大きな文字盤を備えた時計塔の鳴らす鐘によって、腕時計など持っていなかった当時の人々は時を知った。



税関本庁舎

一つ裏に入った長堤大馬路はかつては金融と商業の通りだった。交通が途絶えた深夜や早朝はそのまま戦前の風景となる。目を凝らせばボンネット型の小さなバスやチャイナ服を着た客を乗せた人力車が見えるようだ。

川沿いに歩いているとどうしても橋に行き当たる。1933年にかげられた海珠大橋は広州では最も古い鉄橋で、当初は跳ね上げ式だった。昔この辺りの川のなかに珠のようになめらかで美しい岩石があったことから、橋とそなたもとにある公園は「海珠」と名づけられた。ちなみに中国では湖や大河のことを海とも呼ぶ。

橋は、1949年10月、撤退を決めた国民党軍によって爆破されたのだが、なぜか日本軍の空襲によって破壊されたとされている人も多い。1950年に橋は修復されたが、跳ね上げ式だった鉄橋は固定されてしまっ。

沿江中路

沿江西路は海珠大橋を過ぎると「沿江中路」と少しだけ名称が変わる。

天字碼頭あたりは毎晩ネオンの光であふれかえる。道路側の大きな並木は緑色のライトを浴び、洒落たデザインの街灯が続く遊歩道のベンチや堤防の



ヤシの果のジュースを売る青年。河畔は夜の方がにぎやか。

手すり若者たちが愛を語る。ファッショナブルなカフェバーは色とりどりの照明で店先を演出し、週末の晩にはカクテルを楽しむ裕福な若者で道路沿いの席は埋まる。ここでの一杯のカクテルは3、4人が大衆食堂で飯を食べるほどの値段なのだ。

遊歩道の向こうに鏡のように夜景を映して珠江が横たわり、遊覧船はまぶしいほどの照明で自らの姿を夜空と水面に浮かべる。こんなイルミネーションの祭典を一昔前に誰が想像できただろうか。

かつて広州銀座と呼ばれた北京路は沿江中路の天字碼頭から北へ伸びる。戦前、珠江の流れは、現在も北京路と文明路の交差点にある永漢映画館あたりまで来ていたという。

北京路と中山路の交差するあたりに大きな鳥居を有する神社があったというが、その場所は今は高い塀と鉄扉にさえぎられている。こっそり中をのぞくと大きな並木だけが残り、それが参道だった面影をかるうじて伝えている。戦前、北京路は永漢路、中山路は恵愛路とそれぞれ呼ばれていた。

現在の北京路の一部は歩行者天国になっており、発掘された清の時代の拱北楼跡と当時の道・双門底をガラス張りの道路の下に見ることがができる。

江湾橋から海印橋

沿江中路の終わりにかかる江湾橋の近くに魯迅の旧居がある。全体が黄色く塗られた建物を訪れる人はほとんどいない。

江湾橋を河南へ渡ってすぐ左にかつての国民党本部があり、それぞれ3階建ての2棟の建物には、孫文の住居のほか、会議室、執務室、通信室、印刷室、診療室などが備えられている。記念館として公開されているが、ここもまた訪れる人は少ない。

珠江にかかる橋はどれも夜に点灯してその輪郭をくっきりと夜空に浮かび上がらせるが、なかでも特に綺麗なのが海印橋である。1988年にかかれたこの橋はワイヤで作った三角形を2つ寄せたような斜張橋だ。

昔ここに印鑑の形をした岩石があったことから海印の地名がついたという。明の時代は海印閣、清朝の頃は景観楼と呼ばれた亭があったそうだった。現在は公園となっており、園内のバーは橋を眺めながらビールとお喋りで週末の夜を過ごす若者でにぎわう。

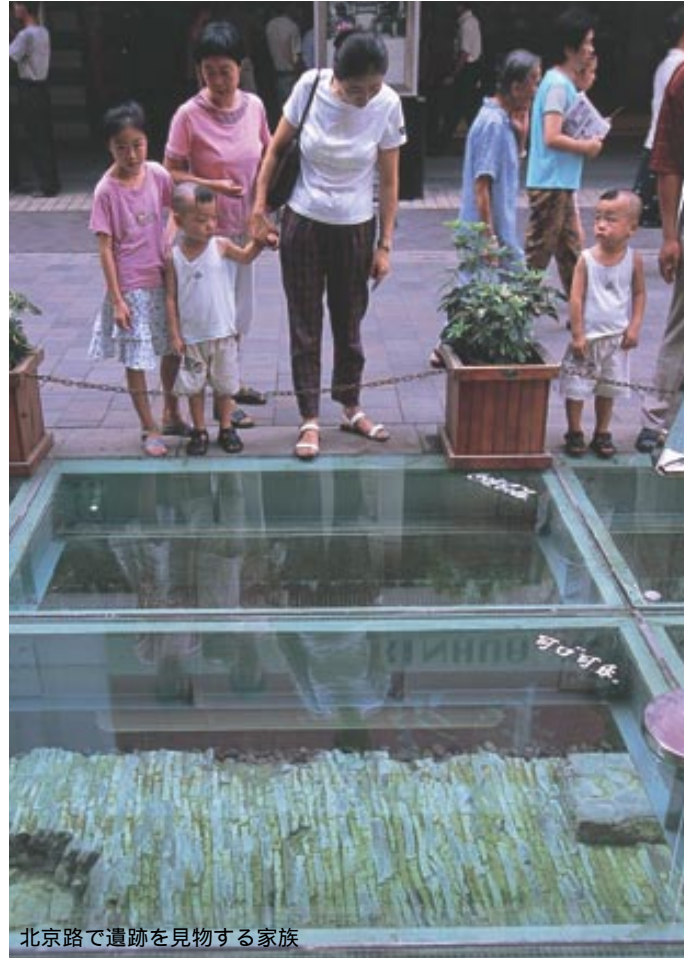
対岸には二沙島と呼ばれる中州がある。以前は草ぼうぼうのなにもない土地だったが区画整理されてコンサートホールができ、美術館が建ち、一時は各



旧国民党本部



海印橋



北京路で遺跡を見物する家族

国の領事館が移転する話が出るまでになり、高級住宅が建ち並ぶ広州で最も土地が高いところと化した。戸建てで1億円もするという。それだけに街中の騒音はここにはない。

大海へ

流れはここから更に東に向かう。広州東部に位置する黄埔軍校に隣り合う長洲島は、在留邦人が終戦時に収容されたところである。その辺りで流れは

なおも合わさり川幅を広げて阿片戦争の勃発地・虎門へと南下する。まもなく河口とも海とも言えないものと化し、やがて香港とマカオの間の海域に達する。広東省デルタ地帯の河のほとんどはこの湾のような海域に集まり、そして大海へ出る。

この地で起こったすべての出来事を知りながら珠江はそれらを飲みこんだまま黙して語らない。時折、行き交う船のつくる波に水面を揺らしてただゆくりと、ゆくりと流れるのみである。

珠江ひと昔

私が広州を初めて訪れたのは改革開放が始まって間もないころだった。土がむき出しになっていた珠江沿いの遊歩道をよく一人歩いたものだ。人のいないガランとした質素な大沙頭埠頭の埠頭で、大連などの遠い都市の名が書かれた料金案内板を見ては、船に乗って行くことかと夢を馳せた。

沿江西路の愛群大廈前の河岸には、東莞あたりからバナナなどの果物を載せて売りに来た農民の手漕ぎ舟がたくさん見られ、岸辺では売り手と買い手のにぎやかな声が飛び交っていた。

買い手の多くがそれらを路上で外国人や華僑に転売していた。生まれて初めて

体験する自営業がこのほかうまくいっているらしく、彼らがみな、ああ儲かると儲かる、金儲けは簡単だ」とうわ言みたいに喋りながら何かにとりつかれたように必死に商売している姿が印象的だった。薄い魚の切り身、タニシに似た小さな巻貝、フタの皮下脂肪、たまご、落花生などをこたに入れた灣仔粥をかまぼこ型の屋根が載った小さなサンパンの中で食べさせる商売も復活していた。

そんな小さなレジャーにも人民は喜びを感じていたようだった。しかし、船が大形化し出される料理も多様になると、捨てられる果物くずなどが増えて河はたちまち汚れた。法律で禁止された屋台舟は90年ころにはすべて消え去る。屋台舟ブームはピールの栓を開けた瞬間に出る泡のようなものだった。

●●●● 珠江を楽しむおすすめスポット ●●●●

河畔のディナービュッフェ



The Riverside BBQ
 白天鵝島賓館の敷地内にあるレストラン。ビュッフェスタイルで炭火グリルの料理を味わえる。食事前に地階のバーで夕焼けを肴に1杯飲んでからというコースがおすすめ。日が暮れたら夜風に吹かれながらビールと洋食を楽しんではいかが。
 広州市沙面白天鵝賓館
 (86)20-8188-6968
 18:30 ~ 22:00

ビアガーデン気分の屋外バー



The Rose Garden Club
 珠江河畔に面した沙面公園の中にあるバー&レストラン。料理は中洋折衷、味は地元色豊かなので、食事よりも食後のお酒に おすすめの店だ。敷地が広いので開放感満点。河畔にはガジュマルの大きな木が並び、市内の喧騒を離れてゆったりと飲める。
 広州市沙面3街玫瑰園西餐厅
 (86)20-8121-8808
 10:00 ~ 翌2:00

特等席で本場の広東料理に舌鼓



広州酒家
 広州三大レストランの一つである老舗の支店。本店は繁華街の文昌街にある。2、3階の席がおすすめ。ランチは2階が大衆的な飲茶。3階は中国風の優雅な雰囲気。本場の広東料理を味わえる。
 広州市滨江西路20号
 (86)20-8442-3123
 7:30 ~ 17:00 / 17:30 ~ 0:00
 ランチ 11:30 ~ 15:00
 2、3階は夜 22:00頃まで

ドイツビールで一味違う夜を



1920 cafe
 ドイツ直輸入のソーセージとビールが味わえるごはんまりとしたレストラン&バー。海珠広場の西側にある古い建物の一角にある。この建物は1920年代にドイツの発電所だったそうで、どこか古めかしい雰囲気がい。夜は外国人客や地元の人たちでにぎわっている。並びにワインバーなど数軒バーがあるが、この店が一番のおすすめだ。通りに面しているので少し騒がしいが、屋外席もある。

広州市沿江中路183号
 (86)20-8333-6156 11:00 ~ 翌2:00

珠江の夜を演出するクルーズ



珠江日夜遊

広州大橋から白鵝潭まで珠江を遊覧できるナイトクルーズ。所要時間は約1時間半。20 ~ 30分おきに出航しており1日10便以上ある。水か茶が出るだけの席と軽食buffetや食事がつく席がある。

広州市客輪公司(珠江明珠号など)	藍海豚遊船
天字碼頭、西堤碼頭、中大碼頭、	大沙頭碼頭、西堤碼頭から出港
芳村碼頭から出港	料金: 39 ~ 98元
料金: 38 ~ 88元	始発 18:30 / 最終 22:30
始発 18:40 / 最終 22:20	2003年8月現在

宿泊

白天鵝賓館 / WHITE SWAN HOTEL
 広州市沙面
 TEL: (86)20-8188-6968
 URL: www.whiteswanhotel.com
 河畔の高級ホテル。03年9月30日まで土曜宿泊に限り、ナイトクルーズなどがつく1泊398元(1名/サービス料15%)のパッケージを提供。



華夏大酒店 / Hotel Land Mark Canton
 広州市海珠広場僑光路
 TEL: (86)20-8335-5988
 URL: www.hotel-landmark.com.cn
 海珠大橋近く海珠広場前にある四ツ星ホテル。部屋数は672室で、ツイン500元 ~。珠江側の部屋は20元増しとなる。

広州へのアクセス

香港からは直通バスか九広鉄路。バスの本数は多く、運賃は片道約HK\$100 ~。九広鉄路の直通列車は1日8便あり、運賃はHK\$180 ~ 230。中国国内も主要都市からの列車や航空も便数が多い。市内は地下鉄やタクシーでの移動が便利だ。ホテルを予約しておけば、広州東駅から送迎バスを利用できる。